



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月9日
東

上場会社名 セイコーホールディングス株式会社 上場取引所
 コード番号 8050 URL <https://www.seiko.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 修司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役・常務執行役員財務管理部長 (氏名) 瀧沢 観 (TEL) 03-3563-2111
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	62,078	13.7	3,105	105.3	4,056	126.4	1,707	—
2022年3月期第1四半期	54,609	53.3	1,512	—	1,791	—	53	△94.3

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 6,837百万円(263.3%) 2022年3月期第1四半期 1,882百万円(54.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	41.40	41.40
2022年3月期第1四半期	1.30	1.30

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	346,544	127,433	36.3
2022年3月期	327,533	121,624	36.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 125,668百万円 2022年3月期 120,067百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	37.50	—	37.50	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	245,000	3.2	10,000	14.0	10,500	5.6	7,500	16.9	181.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 ー社(社名) ー、除外 ー社(社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、【添付資料】9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期1Q	41,404,261株	2022年3月期	41,404,261株
2023年3月期1Q	157,481株	2022年3月期	160,535株
2023年3月期1Q	41,245,268株	2022年3月期1Q	41,232,331株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」の算定上控除する自己株式数には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(会計方針の変更)	P. 9
(セグメント情報)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2022年4月1日～6月30日)における世界経済は、新型コロナウイルス感染症による影響が緩和され、欧米諸国を中心に持ち直しが続いています。一方で、前期からの世界同時的な景気回復等による物価上昇に加えウクライナ情勢の緊迫化を受けた国際商品市況の高騰や中国でのゼロコロナ政策によるロックダウンの影響を受けたサプライチェーンの混乱、さらに各国での金融引き締め進展等を背景に、世界経済の先行きは不確実性が高まっています。

わが国の経済は大幅な円安等による物価上昇が起きましたが、サービスを中心に個人消費が実質GDP成長率を押し上げた結果、プラス成長となりました。

(百万円)

	2021年3月期 第1四半期 累計期間(a)	2022年3月期 第1四半期 累計期間(b)	2023年3月期 第1四半期 累計期間①	前々年同期 増減 ①-(a)	前年同期 増減 ①-(b)
売上高	35,612	54,609	62,078	26,466	7,469
営業利益	△2,178	1,512	3,105	5,284	1,593
%	△6.1%	2.8%	5.0%	—	2.2pt
経常利益	△2,595	1,791	4,056	6,652	2,264
%	△7.3%	3.3%	6.5%	—	3.2pt
親会社株主に帰属する 四半期純利益	942	53	1,707	765	1,654
%	2.6%	0.1%	2.8%	0.2pt	2.7pt
換算レート					
USD(円)	107.6	109.5	129.7	22.1	20.2
EUR(円)	118.6	131.9	138.3	19.7	6.4

このような中、当社は、当期を初年度とする5か年計画である第8次中期経営計画「SEIKO Milestone 145 = SMILE145」をスタートさせ、新たに定めた3つの戦略ドメインである「エモーショナルバリューソリューション事業(EVS事業)」、「デバイスソリューション事業(DS事業)」、「システムソリューション事業(SS事業)」を中心に事業展開を進めました。

EVS事業では、国内市場向けのウォッチ事業、和光事業が個人消費の改善を背景に大きく回復し、ウォッチ事業の海外市場向けも多くの国や地域で売上高を伸ばすことができました。DS事業でも引き続き好調な需要を確実に捉えることで売上高を伸ばし、SS事業も多角化やストックビジネス拡大への取組みが奏功して、前年同期を上回る売上高となりました。その結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、620億円(前年同期比13.7%増)となりました。

連結全体の国内売上高は308億円(同9.0%増)、海外売上高は311億円(同18.9%増)となり、海外売上高割合は50.3%でした。

当第1四半期連結累計期間の広告宣伝販促費は前年同期に対して約10%増加いたしました。その他の販売費および一般管理費も前年同期から増加しましたが、売上高が伸びたことなどにより営業利益は前年同期から15億円改善し31億円(同105.3%増)となりました。営業外収支が持分法による投資利益の増加等により前年同期から改善し、経常利益は前年同期を22億円上回る40億円(同126.4%増)となりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う損失1億円を特別損失に計上し、法人税等および非支配株主に帰属する四半期純利益を控除した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億円(前年同期は53百万円の利益)となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間の平均為替レートは1米ドル129.7円、1ユーロ138.3円でした。

セグメント別の概況は、以下のとおりです。

なお、当社はグループ10年ビジョンの実現に向け、提供するソリューションを基準とした3つの戦略ドメイン（エモーショナルバリューソリューションドメイン、デバイスソリューションドメイン、システムソリューションドメイン）を設定し、第8次中期経営計画「SMILE145」においてもドメインごとの戦略を策定し、推進しております。これに伴い、報告セグメントを従来の「ウォッチ事業」、「電子デバイス事業」、「システムソリューション事業」から、当第1四半期連結会計期間より3つの戦略ドメインである「エモーショナルバリューソリューション事業」、「デバイスソリューション事業」、「システムソリューション事業」へ変更しております。従来のウォッチ事業および電子デバイス事業に含めていた一部事業ならびにタイムクリエーション・和光事業他に含めていたタイムクリエーション事業・和光事業をエモーショナルバリューソリューション事業といたしました。デバイスソリューション事業は、従来の電子デバイス事業からエモーショナルバリューソリューション事業に変更した一部事業以外となります。システムソリューション事業は従来から変更はありません。

① エモーショナルバリューソリューション事業（EVS事業）

EVS事業の売上高は前年同期比61億円増加の390億円（前年同期比18.8%増）となりました。

国内の完成品ウォッチは個人消費の回復により「グランドセイコー」、「セイコー プロスペックス」を中心に前年同期から大きく売上高を伸ばしました。また海外でも、米国で「グランドセイコー」をはじめとしたグローバルブランドが牽引し大幅な売上高増となり、欧州でも全般的に「グランドセイコー」が好調に推移したことで英国、フランス、ドイツ等で大きく売上高が増加しました。一方、中国ではロックダウンの影響を受けて売上高を落としました。

ウォッチムーブメントの外販ビジネスにつきましては、米国向けを中心に売上高を伸ばしました。

和光事業の売上高は国内消費の回復に伴い前年同期と比べ大きく伸びましたが、クロック、設備時計の売上高は伸び悩みました。

売上高の増加、円安の進行等により営業利益は前年同期から13億円増加し24億円（同120.0%増）となりました。

② デバイスソリューション事業（DS事業）

DS事業は売上高165億円（前年同期比10.2%増）、営業利益17億円（同42.2%増）となりました。

一部製品で中国のロックダウンの影響を受けましたが、サーマルプリンタ、医療向け電池や水晶、半導体製造装置向けの高機能金属、精密部品等が引き続き好調に推移し、前年同期から大幅な増収増益となりました。

③ システムソリューション事業（SS事業）

SS事業の売上高は前年同期比3億円増加の91億円（前年同期比3.6%増）、営業利益は前年同期比32百万円増加の9億円（同3.4%増）となりました。

外食産業向けなどにコロナ禍からの回復傾向が見られた他、性能管理・セキュリティ関連ビジネスなども順調に推移し、システム関連、決済関連が伸長した結果、25四半期連続で対前年同四半期比増収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は3,465億円となり、前年度末に比べて、為替による影響も含め190億円の増加となりました。流動資産では、現金及び預金が41億円、棚卸資産が75億円増加したことなどにより、流動資産合計は前年度末より134億円増加し1,682億円となりました。固定資産では、有形固定資産が23億円、無形固定資産が14億円、投資その他の資産が16億円増加したことから、固定資産合計は前年度末と比べ55億円増加の1,782億円となりました。

(負債)

負債につきましては、短期借入金が107億円増加、長期借入金が19億円減少し、借入金合計は1,249億円となりました。未払金が24億円減少したほか、支払手形及び買掛金が29億円、繰延税金負債が13億円増加したことなどにより、負債合計は前年度末と比べ、為替による影響も含め132億円増加の2,191億円となりました。

(純資産)

純資産につきましては、株主資本が6億円増加し、また、為替換算調整勘定が46億円増加したことなどから、合計でも前年度末と比べ58億円増加の1,274億円となりました。

(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間では3つの事業セグメントで前年同期と比べ増収増益となり、想定を若干上回る順調な推移となっております。しかしながら、第2四半期以降につきましては原材料不足・価格高騰、中国のゼロコロナ対策によるサプライチェーンの混乱等のリスクがさらに大きくなりつつあり、日本・世界経済の先行きの不確実性は高まっております。このような状況を踏まえ、通期連結業績予想および通期セグメント別業績予想を前回予想より修正していません。

なお、前回発表した業績予想値は以下の通りです。

【通期連結業績予想】

売上高	2,450億円	(前年比	3.2%増)
営業利益	100億円	(前年比	14.0%増)
経常利益	105億円	(前年比	5.6%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	75億円	(前年比	16.9%増)
1株当たり当期純利益	181.83円		

【通期セグメント別業績予想】

	単位：億円	
	売上高	営業利益
	当期見通し	当期見通し
エモーショナルバリューソリューション事業	1,550	97
デバイスソリューション事業	650	58
システムソリューション事業	360	45
事業別合計	2,560	200
その他	25	1
連結合計	2,450	100

(注) 連結合計はセグメント間の内部売上高消去等、連結調整後の数値です。

※ 上記の予想は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,740	34,885
受取手形、売掛金及び契約資産	38,767	39,090
棚卸資産	73,048	80,610
未収入金	4,437	4,998
その他	9,102	10,042
貸倒引当金	△1,310	△1,371
流動資産合計	154,786	168,254
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	77,046	78,546
機械装置及び運搬具	82,590	86,162
工具、器具及び備品	35,782	37,389
その他	9,909	11,599
減価償却累計額	△156,227	△162,588
土地	54,056	54,162
建設仮勘定	1,942	2,215
有形固定資産合計	105,100	107,488
無形固定資産		
のれん	6,453	7,800
その他	8,391	8,542
無形固定資産合計	14,844	16,342
投資その他の資産		
投資有価証券	43,536	45,062
繰延税金資産	2,200	2,327
その他	7,171	7,177
貸倒引当金	△106	△108
投資その他の資産合計	52,802	54,459
固定資産合計	172,747	178,290
資産合計	327,533	346,544

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,027	24,007
電子記録債務	7,138	7,037
短期借入金	63,709	74,418
1年内償還予定の社債	150	150
1年内返済予定の長期借入金	23,719	23,656
未払金	11,359	8,865
未払法人税等	1,546	1,342
賞与引当金	4,174	2,386
その他の引当金	1,140	1,182
その他	20,448	24,209
流動負債合計	154,413	167,255
固定負債		
社債	300	300
長期借入金	28,752	26,845
繰延税金負債	3,069	4,465
再評価に係る繰延税金負債	3,614	3,614
その他の引当金	807	690
退職給付に係る負債	7,617	7,640
資産除去債務	1,070	1,081
その他	6,262	7,219
固定負債合計	51,494	51,856
負債合計	205,908	219,111
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	7,245	7,245
利益剰余金	79,075	79,749
自己株式	△292	△287
株主資本合計	96,028	96,707
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,942	11,592
繰延ヘッジ損益	△331	△706
土地再評価差額金	8,190	8,190
為替換算調整勘定	5,116	9,770
退職給付に係る調整累計額	120	114
その他の包括利益累計額合計	24,038	28,961
非支配株主持分	1,557	1,764
純資産合計	121,624	127,433
負債純資産合計	327,533	346,544

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	54,609	62,078
売上原価	32,441	35,880
売上総利益	22,167	26,197
販売費及び一般管理費	20,655	23,092
営業利益	1,512	3,105
営業外収益		
受取利息	13	27
受取配当金	391	390
持分法による投資利益	30	370
為替差益	—	553
その他	325	211
営業外収益合計	761	1,554
営業外費用		
支払利息	224	233
為替差損	6	—
その他	251	369
営業外費用合計	482	603
経常利益	1,791	4,056
特別利益		
補助金収入	31	—
特別利益合計	31	—
特別損失		
感染症拡大に伴う損失	470	109
特別損失合計	470	109
税金等調整前四半期純利益	1,352	3,947
法人税等	1,167	2,102
四半期純利益	185	1,844
非支配株主に帰属する四半期純利益	132	136
親会社株主に帰属する四半期純利益	53	1,707

四半期連結包括利益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	185	1,844
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,307	679
繰延ヘッジ損益	49	△374
為替換算調整勘定	22	4,475
退職給付に係る調整額	46	△6
持分法適用会社に対する持分相当額	270	218
その他の包括利益合計	1,696	4,992
四半期包括利益	1,882	6,837
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,750	6,630
非支配株主に係る四半期包括利益	131	207

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表へ与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	エモーシ ナルバリュ ーソリユ ーション事業	デバイスソ リユース ン事業	システムソ リユース ン事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	32,315	13,936	8,253	54,505	103	54,609	—	54,609
セグメント間の内部 売上高又は振替高	528	1,071	566	2,166	172	2,339	△2,339	—
計	32,843	15,008	8,819	56,672	276	56,948	△2,339	54,609
セグメント利益	1,093	1,253	946	3,292	68	3,361	△1,849	1,512

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△1,849百万円には、のれんの償却額△141百万円、セグメント間取引消去等34百万円、各事業セグメントに配分していない全社費用△1,742百万円が含まれております。全社費用の主なものは、事業セグメントに帰属しない本社部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	エモーシ ナルバリュ ーソリユ ーション事業	デバイスソ リユース ン事業	システムソ リユース ン事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	38,332	15,215	8,327	61,875	98	61,974	104	62,078
セグメント間の内部 売上高又は振替高	697	1,317	812	2,826	158	2,985	△2,985	—
計	39,030	16,532	9,139	64,702	257	64,959	△2,881	62,078
セグメント利益	2,405	1,782	978	5,166	47	5,213	△2,108	3,105

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△2,108百万円には、のれんの償却額△141百万円、セグメント間取引消去等△26百万円、各事業セグメントに配分していない全社費用△1,940百万円が含まれております。全社費用の主なものは、事業セグメントに帰属しない本社部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、グループ10年ビジョンの実現に向け、提供するソリューションを基準とした3つの戦略ドメイン（エモーショナルバリューソリューションドメイン、デバイスソリューションドメイン、システムソリューションドメイン）を設定し、第8次中期経営計画「SMILE145」においてもドメインごとの戦略を策定し、推進しております。

これに伴い、従来「ウオッチ事業」、「電子デバイス事業」、「システムソリューション事業」を報告セグメントとしておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「エモーショナルバリューソリューション事業」、「デバイスソリューション事業」、「システムソリューション事業」に変更しております。

この変更により、従来のウオッチ事業および電子デバイス事業に含めていた一部事業ならびにタイムクリエーション・和光事業他に含めていたタイムクリエーション事業・和光事業をエモーショナルバリューソリューション事業といたしました。デバイスソリューション事業は、従来の電子デバイス事業からエモーショナルバリューソリューション事業に変更した一部事業以外となりました。システムソリューション事業は従来から変更はありません。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成しております。

各報告セグメントに属する主要な製品及び商品は、以下のとおりであります。

事業区分	主要な製品及び商品
エモーショナルバリューソリューション事業	ウオッチ、ウオッチムーブメント、クロック、高級宝飾・服飾・雑貨品、設備時計
デバイスソリューション事業	電池・材料、水晶振動子、精密部品、プリンタ、水晶発振器用IC
システムソリューション事業	デジタルトラストソリューション、ネットワークソリューション、ITマネジメントソリューション、IoTソリューション、無線ネットワークソリューション、カスタマーエクスペリエンス（CX）ソリューション、キャッシュレスソリューション
その他	シェアードサービス、不動産賃貸 他